**全国民生委員・児童委員リーダー研修会に参加して**

川越市　大東地区民生委員児童委員協議会　副会長　小野妙子

委員歴：8年2ヶ月

令和6年度全国民生委員・児童委員リーダー研修会に、10月17日(木)～18日(金)の2日間の日程で参加しました。会場は全国社会福祉協議会「灘尾ホール」で、全国各地から多くの民生委員・児童委員が集まりました。

研修では、厚生労働省、こども家庭庁からの行政説明、南友次郎先生によるリーダーとしての役割に関する講義、日高康晴先生によるセクシュアルマイノリティの人権理解に関する講義など、多岐にわたる内容を学びました。

これらの講義やグループワークを通して、多くの学びがありましたが、特に印象に残ったことを3点挙げさせていただきます。

**1. 多様なニーズへの対応**

日高先生の講義では、セクシュアルマイノリティの方々に関する基礎知識から、差別や偏見の実態、そして私たち民生委員・児童委員がどのように支援していくべきか、具体的な事例を交えながら学びました。

近年、セクシュアルマイノリティの方々を取り巻く状況は大きく変化しており、社会全体で理解を深め、差別や偏見をなくしていくことが重要です。私たち民生委員・児童委員も、地域住民の相談相手として、性的マイノリティの方々を含め、あらゆる方の悩みに寄り添い、必要な支援を提供できるよう、常に知識をアップデートし、理解を深めていく必要があると感じました。

**2. ICT技術の活用**

渋谷区の事例発表では、タブレット端末を導入し、定例会をハイブリッド方式で開催することで、委員の負担軽減に成功しているとのことでした。具体的には、資料の配布や議事録の作成、情報共有などが効率化され、会議時間の短縮にもつながっているそうです。

私たちの地域でも、高齢化や担い手不足が課題となっており、ICT技術の活用は、これらの課題解決の一助となる可能性を秘めていると感じました。会議のオンライン化や情報共有ツールの活用など、積極的にICT技術を取り入れることで、委員の負担軽減を図り、より多くの住民に寄り添った活動ができるのではないかと考えています。

**3. 地域特性に合わせた活動**

グループワークでは、各地域の民生委員・児童委員活動の充実と継続性を高めるための工夫について意見交換を行いました。

ある地域では、委員の意見を取り入れ、定例会でカラオケを楽しむことで親睦を深めているそうです。別の地域では、仕事や子育てで忙しい委員のために、夜間や土日に定例会を開催するなど、柔軟な運営を行っていました。

これらの事例から、それぞれの地域特性に合わせた活動の重要性を改めて認識しました。私たちの地域でも、地域住民のニーズや委員の状況を把握し、柔軟に対応することで、より効果的な活動ができるよう努めていきたいと思います。

研修で得た学びを活かし、自分自身の活動を見直し、地域の実情に合わせた活動方法を検討することで、地域住民の皆様にとってより身近で頼りになる存在を目指します。

今回の研修で学んだことを地域に持ち帰り、それぞれの地域に合った形に変えて活用し、よりよい民生委員活動につなげていければ、さらなる発展につながるのではないかと考えます。

民生委員自身がより良い活動をしていくために、まずはいかに負担を減らすか苦痛を取り除けるかが課題だと思料します。

できることを、できるときに、できるだけ。